

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター医療安全監査委員会
議事概要

日 時：平成31年3月11日（月）13：00～14：00

会 場：名古屋医療センター 5階 第1会議室

出席者：（◎は委員長）

（監査委員）

◎荒井 秀典	国立長寿医療研究センター病院長
長尾 能雅	名古屋大学医学部附属病院副病院長、教授
浅井 正子	特定非営利活動法人ミーネット理事
串田 正克	串田法律事務所弁護士

（名古屋医療センター）

直江 知樹	名古屋医療センター院長
奥田 聡	名古屋医療センター副院長
内山 忍	名古屋医療センター看護部長
川上 千代	名古屋医療センター医療安全管理係長
長谷川 亜矢子	名古屋医療センター医療安全副看護師長
竹内 正紀	名古屋医療センター副薬剤部長
高井 浩司	名古屋医療センター臨床工学技士長
平田 和好	名古屋医療センター経営企画室長
南谷 崇明	名古屋医療センター専門職

議事概要

<開会の挨拶>

名古屋医療センター直江院長から開会の挨拶

<名古屋医療センターに医療安全に関する説明>

医療安全管理部長青田、医療安全管理係長川上から、名古屋医療センター医療安全管理状況等について説明。

<質疑応答>（●監査委員、○名古屋医療センター職員）

●前回開催時にいくつか改善事項がありましたので、その報告をお願いします。

○まず、医師のインシデント報告が少ない件について、オカレンス報告を昨年10月から開始し、医師の報告割合が4%、コメディカルの報告割合が8%と徐々に上がってきています。

転倒転落の注意喚起について、アセスメントシートや離床センサーの活用がありますが、当院では特に履き物に関する注意喚起を重点的に行いました。患者や患者家族の説明やポスターの作成なども行いました。

注意喚起を行った結果の評価については、先程の医療安全に関する説明の中で、脳ドレーンの院内ラウンドを継続して行い、その後抜き打ちでラウンドをしても問題がなかったとの成功例を

話させていただきました。これらの改善の結果については最終的に数値化して行くことが大切だと考えていますが、そこまで達していません。

医療安全の専従の薬剤師はまだ配置していませんが、専任薬剤師として副薬剤部長を配置しています。現在はこの体制ですが、今後専従も検討していきます。

ICについては、現場での監査体制としてカルテ監査により、ICができていることを確認しています。

医療安全管理研修に関して、全職員が対象となる研修は、当日参加出来ない場合、研修映像を事後で見ることができるようになっています。

ホームページによる医療安全関係の情報発信ですが、まだ実施できていません。今後医療安全管理部で検討していきます。

画像の見落としに関しては6～9月にかけて電子カルテのバージョンアップ予定なので、そこで対応出来ればと考えています。

●ありがとうございます。委員から何か意見があればお願いします。

●ではまず始めに、転倒転落による頭部外傷に対する病院の体制はどのようにしていますか。

○脳神経外科は24時間当番制を取っていますので、頭部外傷があっても対応出来ています。

●患者の取り違えについて、事例は少ないですか。

○患者の取り違えは薬の関係で多くあります。

●取り違えに対する具体的な対策を教えてください。

○医療安全マニュアルに基づき、リストバンドによる本人確認や、投与薬剤をシステムにより確認するようにしています。

●転倒転落に関して3bは骨折だと思いますが、かなり件数が多く、対策はどうしていますか。

○離床センサーやマットを患者さんの状態を見て、看護師間で検討して対応するようにしています。また薬剤師やリハビリスタッフと一緒にラウンドし、対応に問題がないか確認しています。

●あまり看護師がナーバスになりすぎると、患者の行動に制限を加えることが考えられますので、適切な対応をお願いします。

●日々のインシデントはどこが集計しているのですか。

○医療安全管理部が把握し、毎週のカンファレンスで確認を行っています。

●過失や事故となるかどうかの判断はどうしていますか。

○医療安全管理部が副院長や院長に報告し、医療問題検討委員会を開催しています。

●死亡事例報告から取り上げた事例はありますか。

○あります。

●組織として医療安全管理は委員会が中心なのですか、それとも医療安全管理部が中心なのですか。

○医療安全管理委員会が中心であり、医療安全管理部は事務局のような存在です。

●細心の注意を払っていると思いますが、それでも患者の不注意や思い違いによるインシデントもあると思います。それらについてもインシデント報告されていますか。

○インシデント報告され、報告件数に含めています。

●全職員参加ではない医療安全研修に関して、参加のバラツキが見られます。

○医師にもっと参加して欲しいと考え、アナウンスをしていますが、来年度さらに努力します。

●医療安全システムによりしっかり報告されていることは分かりましたが、報告件数が多いのか少ないのか他院との比較がないので分かりません。また報告が多く集積されていけば、その対応についても検討されているのではないですか。

○報告が多いのか少ないのか説明するのは難しいところです。国立病院機構としても集計作業が精一杯で分析できるところまで達していません。

<その他：医療安全監査委員会規程の改定について>
改訂案について提示し、特に反対意見はなかった。